

清流

題字：芳野 充

平成29年1月30日

第1号

発行所 加来不動産(株)

発行者 加来 寛

北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに
静かに
清流のように

恩を返す生き方

「あなたは気づかないかもしれないけれど、色んな人や自然から恩をうけているんですよ。だから、これからは恩を返す生き方をしていきなさいよ。」

この言葉は母が亡くなる2、3日前にわたしに伝えてくれた言葉です。この母からの言葉に対していまよりもまだ世間知らずだったわたしは「そんなこと言われんでも分かつとる」とえらそうに返答をしました。

母と最後に交わした言葉は「おやすみ」でした。朝には「おはよう」と言葉をかけることがありますでした。死因は心不全。五十九歳といういまでは若すぎる命でした。

それまでわたしは自宅と事務所と併用された一戸建てで母と仕事をしておりましたが、仕事らしいことはしておらず本当にいい加減な人間でした。何の準備もなく、なんの引継ぎもなく突然いなくなった母の大きすぎる存在にそのときようやく気づきました。

しかしゆっくりと考える間もなく頭のなかが真っ白になりながらも、妻や義理の弟、そして高校の同級生だった井料さんの力を借りて泥まみれになりながら、何とかいままでやってこることができました。

今年一月でわたしは有難いことに四十歳をおかえ、気づけば母が亡くなってから十五年が経とうとしています。この四十歳という人生で言えばすでにおり返しの歳に差し掛かり今までを振りかえると、本当に色んな方や自然から恩を受けているんだなあ、有難いなあ、とすこしは思えるようになってきました。

そこでわたしは母の遺言ともいえる「恩を返す生き方」についてこれから真剣に考えて人生を過ごしていこうと思ひ、その思いを稚拙な文章ではありますが、毎月発行させていただこうと思ひ至りました。

発行にともない表題はわたしが師事しております、素心学塾塾長池田繁美様よりいただきました。また題字はご縁をいただき、ともに素心学塾で学ばせていただいております芳野充様(元小学校校長)に快く書いていただきました。ありがとうございます。

まだまだ世間知らずではありますが、どうぞこれから末永くよろしくお願ひいたします。

加来

寛

